

## 中学生の「税についての作文」

大川税務署管内納税貯蓄組合連合会 会長賞

### 身近な税について

大川市立大川中学校

三年 石橋 諒 也

僕は、今年の十月から消費税率が八パーセントから十パーセントに引き上げられることをニュースで知りました。買い物をするとき、定価とは別に消費税が付いてきます。だから、初めこのことを聞いたとき「値段が上がるから嫌だなあ。」と思っていました。それは、僕たちにとって一番身近な消費税がどのように使われているのかを知らなかったからです。そこで、僕は消費税の使い道を調べ、引き上げられる理由を考えることにしました。

まずは、消費税の使い道について調べました。消費税は社会保障費として使われるそうです。社会保障とは、国民が安心して生活していくために必要な公的サービスのことで、福祉、介護、年金、医療などを指します。

福祉は主に、子育て支援のことです。日本は現在人口が減少しており、人口が減少すると国の成長が止まってしまうので、子どもを産んで育てやすい環境をつくらうというのが目的です。保育園や幼稚園に定員オーバーで入れない待機児童を減らすために、保育園や幼稚園を増やしたり、小さな子どもがいる家庭にお金を支援したりします。

介護は、お年寄りや難病で自分だけではお金を払えない人

たちのために治療費の一部を負担するシステムです。年金は、六十五歳以上の人に国がお金を支給するシステムです。

医療は、病気やけがで治療費がかかっても病院には三割しか払わなくていいということですが、例えば一万円かかっても三千円でよいのです。これには健康保険に加入することで保障されます。医療の多くは、給料から集めた健康保険料で賄われていますが、それだけでは足りないため消費税の一部が使われます。

これら四つが消費税の使い道とわかりました。また、その四つがどういうものなのかを詳しく理解できました。

次に、消費税が引き上げられる理由を考えました。大きな理由は少子高齢化が進んでいるからだだと思います。少子高齢化が進むと国の収入が減り、社会保障費が拡大します。すると社会保障費が足りなくなります。

少子高齢化が明確なのは地方だと思えます。僕の住んでいる大川市でもよくわかります。例えば、僕の兄が中学三年生のときは、四クラスありましたが、僕の学年では二クラスになりました。兄とは六歳違います。たった六年でこんなにも減っていることに驚きました。

こんなことが日本全体で起こっているならば、本当に大きな問題だと思えます。

僕は、税のことをよく知り考えることで税金は自分たちのために納めるものだと思うようになりました。今、納めている税金が将来役立つと思えば、税金は未来への投資かもしれません。その投資が必ずいいほうに使われることを望んでいます。